

第 98 号

2021 年 11 月
発刊

堀川病院

地域医療連携室だより

最新技術と最高レベルの画像を提供します（超音波編）

臨床検査部係長 下田浩史

平素より大変お世話になっております。また、検査のご依頼をいただき誠にありがとうございます。

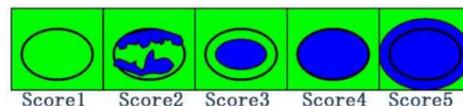
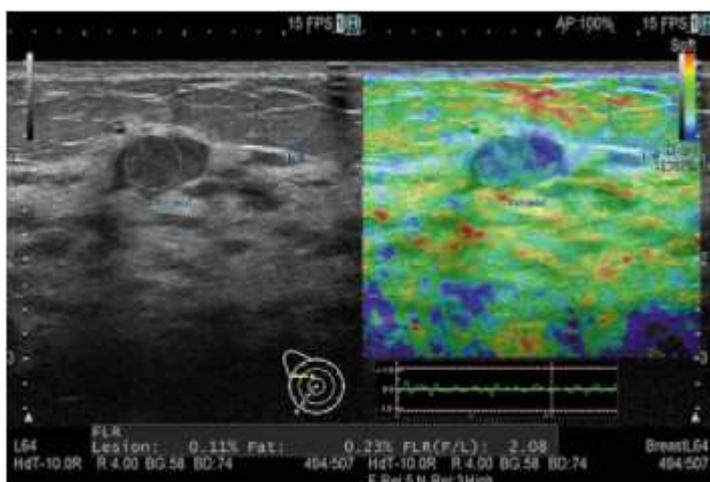
堀川病院臨床検査部では、超音波検査・ホルター心電図・24 時間血圧測定・運動負荷試験・PSG などの受け入れをさせていただいております。

今回は当院で使用している超音波診断装置 ARIETTA 850 富士フイルムヘルスケア（旧：日立）を紹介します。

モニタには 22 インチのワイド OLED Monitor（有機 EL モニタ）を搭載。自発光のため黒が白浮きせず高いコントラスト分解能を誇ります。グレースケールにこだわる超音波診断装置に適しています。

続いて、アプリケーションは以下のものを装備しています。

・Real-time Tissue Elastography (RTE) : 組織のひずみリアルタイムに算出することで、硬さの違いを色分け表示をします。乳腺組織をはじめ、甲状腺、泌尿器など幅広い臨床分野で応用が可能です。

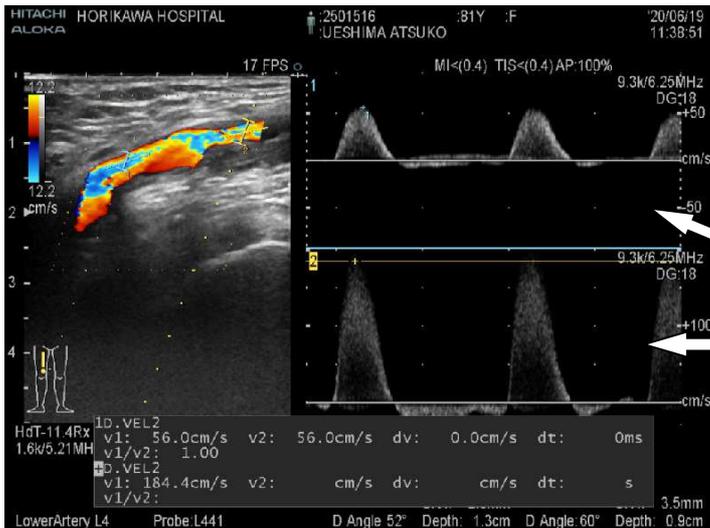


良性 ←————→ 悪性

・ **Detective Flow Imaging (DFI)** : これまで描出困難であった低流速の血流を表示する新しいイメージング技術です。独自のアルゴリズムで微細な血流をより高分解能に感度よく描出します。



・ **Dual Gate Doppler** : 同一断面で2カ所のドプラ波形を観察することが可能です。計測が同一心拍で行えるため、心房細動などの不整脈がある場合に有効です。



- 1.狭窄部 PSV1.52m/s : 有意狭窄疑い
- 2. PSVR
 - >2 50~74%
 - >4 75~89%
 - >7 90~99%
- 3. 血流シグナル (-) : 閉塞

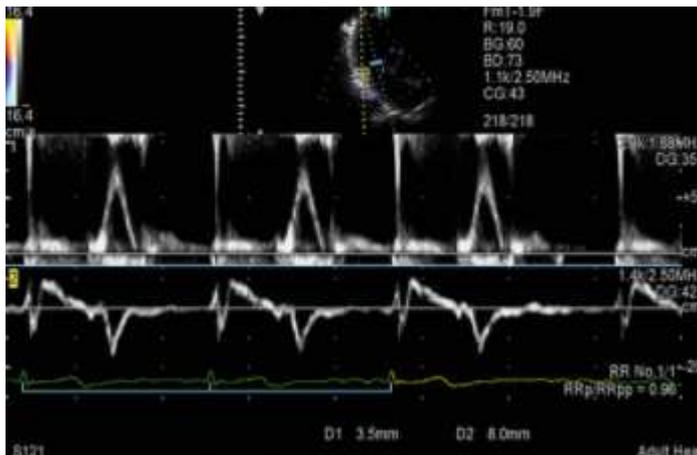
非狭窄部 PSV 56cm/s

狭窄部 PSV 184cm/s

PSVR 3.3 (50~74%と推定)

実際の径狭窄率 70%

また、血流だけでなく組織ドプラとも組み合わせることができるため、左室拡張機能指標の一つである **E/e'** などの計測も可能です。



この装置を操る生理検査スタッフは、「超音波検査士」の認定資格を得て検査に従事しております。(消化器領域3名、循環器領域2名、泌尿器領域2名、体表臓器領域1名、血管領域1名)

各種研修会に参加し、客観的で説得力のある画像を提供できるよう知識と技術の向上に努めております。

検査中、肌を露出して検査するため患者様ごとに部屋の温度が適切かをお聞きし、温めた超音波ゼリーを使用します。また下肢エコー時には検査していない足にタオルをかけるなどの気配りも忘れません。

検査後は温かいおしぼりを患者様にお渡しするなど、検査でのストレスが少しでも癒やされるように心掛けています。

生理検査スタッフ一同、先生方からの検査のご依頼をお待ちしております。
今後とも宜しく願い申し上げます。

居宅療養部のご紹介

クリニックほりかわ居宅療養部は、故早川一光先生が終戦後西陣で地域住民と「自分たちの生活と健康は自分たちの力で守ろう。」という在宅医療の礎を築かれたことを原点とした機能強化型在宅支援診療所です。地域の皆様の健康を守るため、また住み慣れた場所で自分らしい療養を希望される方々に対して、複数医師の連携による医療と看護の支援提供を行っております。

《訪問診療及び往診について》

- ・月曜日から金曜日まで午前・午後体制
夜間・土日祝日は当番制
- ・管理患者数：252名
- ・2020年度看取り患者数：40名⇒在宅21名・施設19名

未知なる新型コロナウイルス感染症に対してはワクチン接種が進む一方、未だに収束の目途は難しく予断を許さない状況が続いています。そして2025年には団塊

の世代と呼ばれる人たちが75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護のニーズがより増大することが予想されています。今後はさらに地域の実情に沿った包括的な支援を提供していくことが必要不可欠です。

クリニックほりかわ居宅療養部は地域の皆様の想いに応えるために、現在の「非日常的な状況」を「日常」と捉えた上で感染症対策を徹底し、医療を必要とする患者様の意思を一番に尊重し、その人らしい望まれる生活が尊厳をもって送れるように、「つながり」を大切にしながら寄り添い、地域に根付いた医療看護の提供に懸命に取り組みます。近隣開業医の諸先生方と連携し、自宅や施設、どこで暮らしていても患者様に安心した在宅療養生活を送っていただけるよう一緒に伴走させていただきます。新規患者様のご依頼は地域医療連携室を通してご紹介くだされば幸いです。



堀川病院 居宅療養部
看護長 高野佳子

編集後記

例年になく半袖でも過ごせていた10月前半でしたが一気に冷え込み身体の調子を整えるのに苦労する日々です。先日は木枯らし1号が吹きました。「木枯らし」とは気象庁によると晩秋から初冬にかけて吹く北よりの強い風のことのようです。堀川通りの銀杏の葉も黄色く色づき始め、これから秋も本番を迎えますが、一気に冬へと季節が移り変わるのではと感じています。手洗い・うがいを一層心がけ、感染症にも負けない体づくりのために秋ならではの美味しいものをたくさん食べたいと思います。

地域医療連携室 久須窪充仁

社会医療法人 西陣健康会 堀川病院 地域医療連携室

お問い合わせ TEL : 075-417-3760

FAX : 075-417-3766

Eメール : hori-ren@mbox.kyoto-inet.or.jp